

海外だより

モンゴル国からの活動報告 4 助産師の卒後研修強化に向けた活動

池本めぐみ

国立国際医療研究センター 国際医療協力局 助産師

はじめに

私は、2021年4月から独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency : JICA）の技術協力プロジェクト「医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクト」の長期専門家として国立国際医療研究センター国際医療協力局からモンゴル国に派遣されています。新型コロナウイルス感染症による移動の制限、関係者の感染等の影響がありますが、感染予防を徹底し、日々の活動を進めています。

今回は、2021年11月に開催されたJoint Coordination Committee（以下、JCC）で承認された助産師の卒後研修強化に向けた活動、活動の実際をご報告させていただきます。

1. 助産師の卒後研修強化に向けた活動

JCCは、プロジェクトの意思決定がなされる重要な会議で、プロジェクトリーダーである保健省の事務次官のもとで開催されました。今回のJCCでは、プロジェクトの終了時期である2024年12月までの活動計画や、その達成指標などをProject Design Matrix (PDM) に沿って検討を重ね、合意を図るものでした。

主な助産師の活動は、①新人助産師に関連する活動（卒後研修のガイドラインの開発、新人助産師を育成するためのモデル研修プログラムの開発、モデルサイトでのモデル研修プログラムの実施等）、②助産師を指導する指導者の育成（助産師の指導者養成研修の開発・導入、国レベルのファシリテーター養成研修の開発・導入等）、③専門研修の開発・導入等で、正式に合意を得ました。また、これらの活動に加えて保健省の卒後研修の体制や管理に対する能力強化を行います。

JCCでは、事務次官から助産師に関する発言がありました。前号で紹介させていただいたように、助産師の卒後研修は、その強化に向けて動き始めたばかりです。多くの臨床の助産師は未だ「コメディカル」という他職種と混合した位置づけにあります。このような背景においてJCCで事務次官が助産師の卒後研修強化への実現や助産師への期待が述べられ、これらの保健省の姿勢や言葉は多くの助産の関係者に希望とやる気を与えるものでした。

いつも助産の関係者と話しているのですが、現在、新型コロナウイルス感染症への助産師の貢献に対する社会からの認知・保健省の助産師への期待が、助産師という職業への社会の理解や卒後研修強化の実現という風が吹いてきています。私たち（もちろん助産の関係者を含む）は、たとえどんな困難があろうとも確実にこの風に乗れ、助産師の能力強化とともに母子や女性のより良い人生や生活の実現に向け、より良い助産サービスを提供したいとの想いをひとつにしています。また、このモンゴル国の助産の関係者の活動への活力の源は、今まで長きにわたる日本助産師会の先生方のご支援や関わりがあるからだと感じています。



(写真1) JCCの様子

2. 国レベルのファシリテーターの誕生

本プロジェクトの前フェーズにあたる「一次及び二次レベル医療従事者のための卒後研修強化プロジェクト（2015年5月～2020年12月）」では、医師の卒後研修制度の整備や総合診療研修の開発、指導医の育成等を行いました。良い医師を育てるためには、①研修を受ける医師、②良い指導者、③良いカリキュラムが必要であるとし、活動が進められました。そして、総合診療医が育成されており、地方の医療の質の向上に貢献しています。この前フェーズの知見を活かし、看護師および助産師の卒後研修強化が計画されています。

看護師の卒後研修強化に向けての活動は、2019年から開始しており、看護師の指導者養成研修・ファシリテーター養成研修が開発されています。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これらの研修の実施が延期されていましたが、2021年11月に研修が再開されました。ここでのファシリテーター養成で育成されるファシリテーターは、看護師の指導者養成研修の講師となることができ、国に登録されることになります。

2021年12月、看護師のファシリテーター養成研修が初めて開催されました。先ほど述べたように、臨床の助産師はコメディカルの位置づけにあり、その多くは看護部の管理下にあります。また助産師は、助産師に特化した卒後研修が十分に整備されていないために看護師等の他の領域の研修に参加していません。これらの理由から、この初の看護師のファシリテーター養成研修に3名の助産師が参加することができました。この3名はファシリテーターであるだ

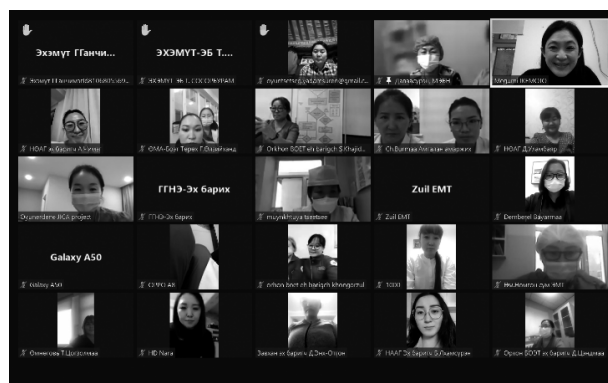


(写真2) ファシリテーターに登録された助産師と筆者（右より2人目）

けでなく、今後の助産師の指導者養成研修を開発、率いていく重要な助産師であり、助産師への明るい光です。彼女たちはファシリテーター養成研修に積極的に参加し、意見を述べ、保健省等から高く評価されました。このように一つひとつの活動、一人ひとりの助産師の貢献が丁寧に積み重ねられています。

3. オンラインイベント「助産師の意見交換会～私たちの課題、助産師の未来を見据えて～」の開催

2021年12月にモンゴル助産師会、モンゴル医科大学、JICAプロジェクトが共同で助産師の卒前教育、卒後教育を含む現場からの課題に対する発表と意見交換を行うオンラインイベントを実施しました。ウランバートル市内と地方、公私を含む8病院からの発表と意見交換がなされました。オンラインへの入室は115件であり、複数人から30人が集合していた病院もありました。モンゴル国の助産師の数は1,079人とされている（Center for Health Development, 2021）ので、かなり多くの助産師が参加して下さったことがわかります。これからも現場の助産師の意見も大切に、助産の関係者とともに活動していきたいと思えます。



(写真3) オンラインイベント

おわりに

新型コロナウイルス感染症の再燃のために大変お忙しい中、ご支援・ご指導をいただいた皆様、ともに活動して下さったすべての関係者の方に深く感謝申し上げます。

【参考文献】

Center for Health Development, Health indicators 2020, 2021.